

岡山県感染症週報 2015年 第22週 (5月25日～5月31日)

◆2015年 第22週 (5/25～5/31) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第20週 5類感染症 梅毒 1名 (20代 男)

第21週 5類感染症 ウイルス性肝炎 1名 (20代 女)

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名 (80代 女)

侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (30代 男)

第22週 2類感染症 結核 9名 (10代 女 1名、20代 男 1名、30代 男 1名・女 1名、
60代 男 1名、70代 男 2名・女 1名、80代 男 1名)

■定点把握感染症発生状況

○感染性胃腸炎は、県全体で417名 (定点あたり7.02→7.72人) の報告があり、前週より増加しました。

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で114名 (定点あたり1.35→2.11人) の報告があり、前週より増加しました。

○手足口病は、県全体で88名 (定点あたり1.37→1.63人) の報告があり、前週より増加しました。

【お知らせ】「2014/2015年シーズン 岡山県インフルエンザ発生状況のまとめ」を掲載しました。

1. **感染性胃腸炎**は、県全体で417名 (定点あたり7.02→7.72人) の報告があり、前週より増加しました。地域別では、真庭地域 (15.00人)、美作地域 (13.50人)、倉敷市 (9.45人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など、詳しくは「[感染性胃腸炎週報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。
2. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で114名 (定点あたり1.35→2.11人) の報告があり、前週より増加しました。過去10年間の同時期と比較して、最も多い状態です。地域別では、真庭以外の全ての地域で患者の発生が見られました。倉敷市 (1.45→4.18人)、備北地域 (3.50人)、備中地域 (2.00人) の順で定点あたり報告数が多くなっており、特に倉敷市は前週より倍増しました。この感染症は、突然の発熱と体のだるさ・のどの痛みで発症し、しばしば嘔吐を伴います。また、口腔内に小点状出血あるいは莓舌 (イチゴのように赤くブツブツしている舌) がみられることがあります。就学前から学童期の小児に多く報告されており、学校などで集団感染することもありますので、患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。
3. **手足口病**は、県全体で88名 (定点あたり1.37→1.63人) の報告があり、3週連続で増加しました。地域別では、備北地域 (1.00→4.25人) で定点あたり報告数が前週より大きく増加しており、備北地域、倉敷市 (1.64人)、備中地域 (1.57人) の順で多くなっています。症状は、軽度の発熱とともに、口腔粘膜、手掌、足底や足背に2～3mmの水疱性発しんが出現するのが特徴です。例年、6月頃から患者数の増加がみられ、7～8月頃に流行のピークを迎えます。患者との濃厚接触や、便の中に含まれるウイルスによる経口感染が主な感染経路です。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒を励行する等、感染予防に努めましょう。
4. **中東呼吸器症候群 (MERS)** は、2012年に初めて確認された新種のコロナウイルス (MERSコロナウイルス) による感染症です。主に中東地域で患者が報告されていますが、ヨーロッパ (イタリア、イギリスなど) やアフリカ (エジプト、アルジェリアなど) のほか、韓国においても中東地域で感染した人 (輸入症例) およびその輸入症例患者と接触した人などの感染が報告されています。この感染症の感染経路は、正確には分っていませんが、ヒトコブラクダが感染源の一つであるとされています。その一方で、動物との接触歴のない患者も多く報告されており、院内感染対策が不十分な医療機関では、患者-医療従事者間や患者-患者間での感染も報告されています。季節性インフルエンザのように、次々にヒトからヒトに感染すること (持続的なヒト-ヒト感染) はないとされています。主な症状は、発熱、せき、息切れなどで下痢などの消化器症状を伴う場合もあります。特に高齢者や糖尿病、慢性肺疾患、免疫不全などの基礎疾患のある人で重症化する傾向があります。

発生地域に行かれる際には、十分に手を洗う、不衛生な状況で調理された料理はさけるなどといった一般的な衛生対策を心がけましょう。また、せきやくしゃみをしている人、動物 (ラクダを含む) との接触は可能な限り避けましょう。帰国後に発熱やせきなどの症状がある方は、空港内などの検疫所へご相談ください。

[中東呼吸器症候群 \(MERS\) \(国立感染症研究所\)](#)

[中東呼吸器症候群 \(MERS\) について \(厚生労働省\)](#)

[中東呼吸器症候群 \(MERS\) に関するQ&A \(厚生労働省\)](#)

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★★★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	百日咳		★
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：
 : 2倍以上の減少 : 1.1~2倍未満の減少 : 1.1未満の増減
 : 1.1~2倍未満の増加 : 2倍以上の増加
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。
空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

蚊が発生する季節になりました！

蚊が媒介する感染症に注意しましょう。

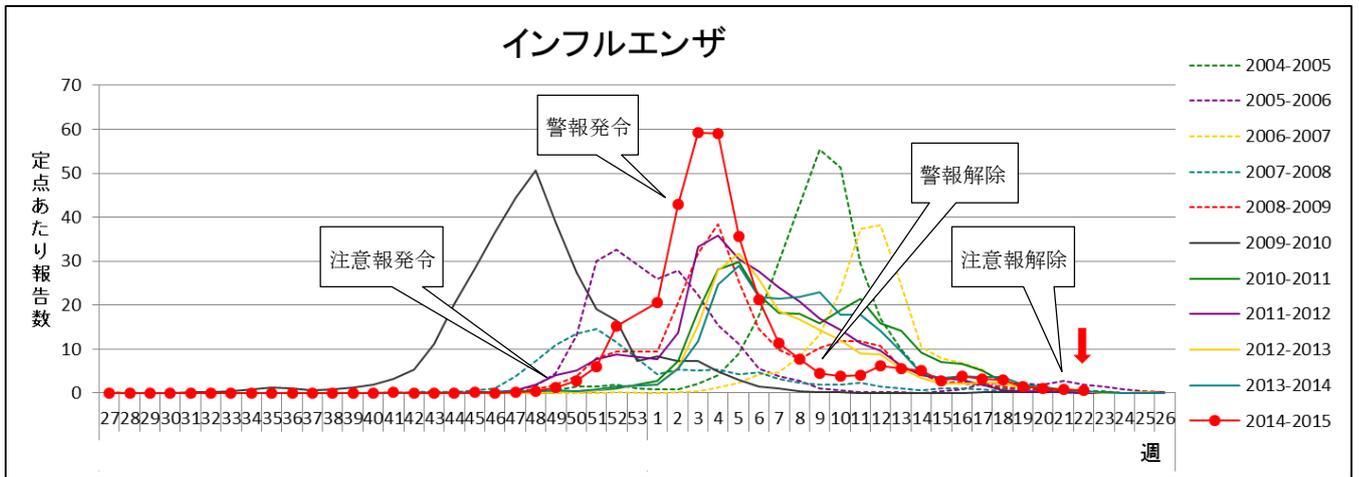
蚊が媒介する感染症は、デング熱、日本脳炎、マラリアなどがあります。特にデング熱は、デングウイルスをもつ蚊（ヒトスジシマカ）に刺されることで起こる感染症で、主に熱帯・亜熱帯地域で流行しています。近年、海外渡航の増加などにより、海外で感染し帰国後発症する輸入症例が増加しており、昨年は、国内感染事例も報告されました。国内には、ウイルスは定着していないと考えられますが、今後も注意が必要です。

◎蚊に刺されないためのポイント

- 長袖、長ズボンを着用するなど、屋外の作業において、肌の露出を避ける。
- 虫よけ剤を使用し、蚊を寄せ付けないようにする。
- 室内の蚊の駆除を心がける。
- 蚊の幼虫の発生源をつくらないようにする。
 - ・植木鉢の受け皿や空き缶、ペットボトル、古タイヤに溜まった水は捨てる。
 - ・雨水タンクに蓋をする。
- 海外渡航の際は、設備（網戸やエアコンなど）が整った宿泊施設を利用する。

岡山県 インフルエンザ発生状況

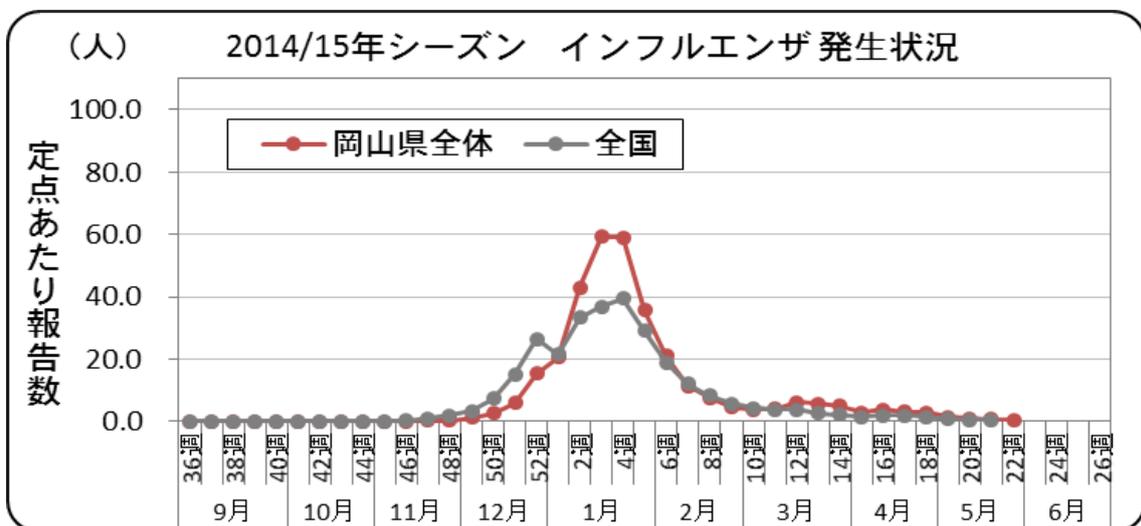
(2014/2015 年シーズン流行のまとめ)



2014/15年シーズン（2014年9月1日～2015年8月30日）のうち、2015年5月31日までの、岡山県におけるインフルエンザの発生動向をまとめました（県内84定点医療機関報告）。

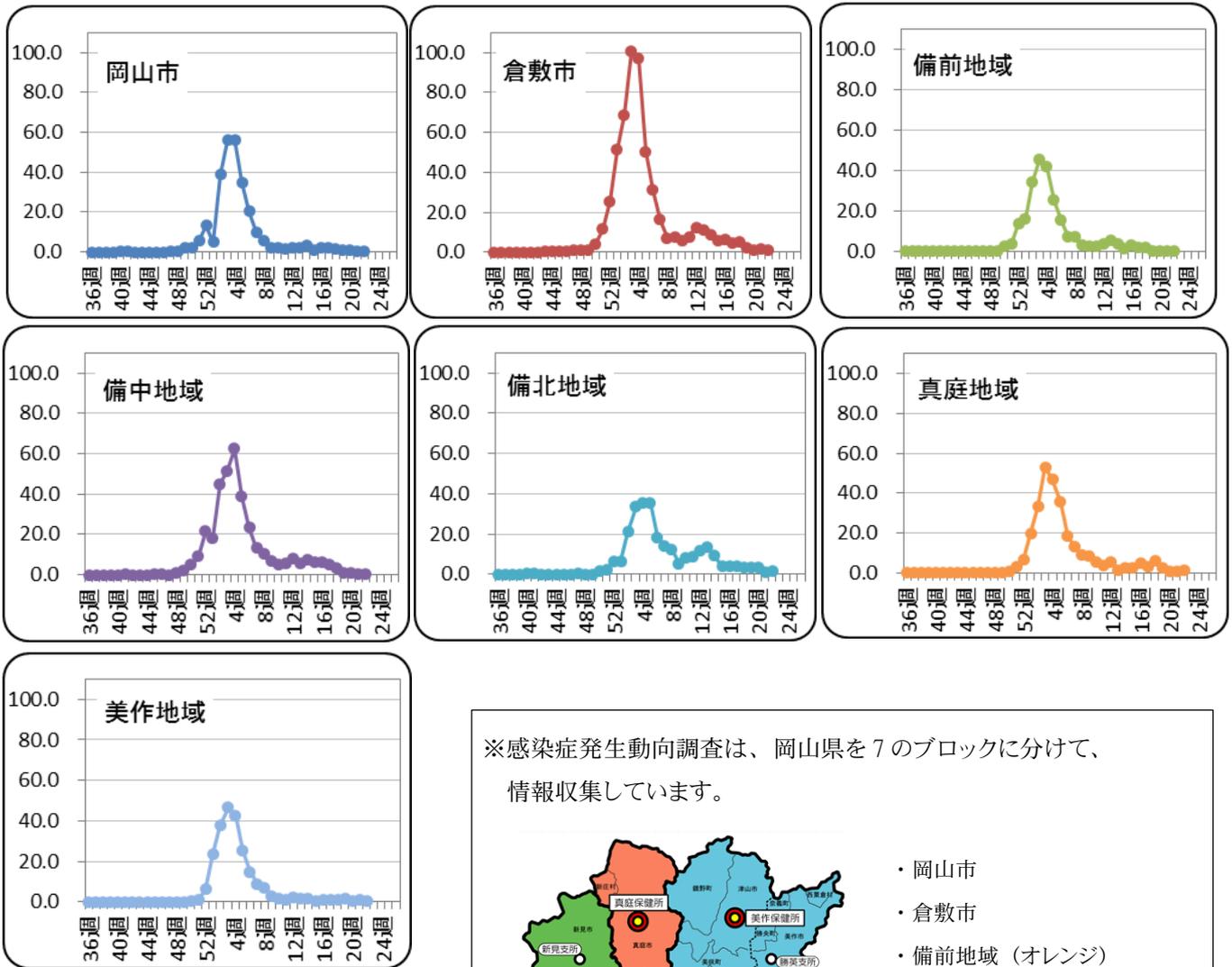
岡山県では、2014年第36週（9/1～9/7）に今シーズン初めての患者が報告されました。第49週（12/1～12/7）には定点あたり報告数1.24人となり、注意報発令基準の定点あたり1.00人を上まわったことから、岡山県は12月11日「インフルエンザ注意報」を発令しました。その後、急速に流行が拡大し、2015年第2週（1/5～1/11）には定点あたり42.99人となり、警報発令基準の30.00人を上まわったため、1月15日「インフルエンザ警報」を発令し、さらなる注意喚起をはかりました。第3・4週（1/12～1/25）、過去10年間で最も高いピーク（59.21人・58.98人）となり、以降急速に減少しました。その後、第8・9週と2週連続で定点あたり10.00人を下まわったため、警報から注意報に切り替え、以降定点あたり報告数は、ほぼ横ばい状態から徐々に減少しました。5月中旬の第20週（5/11～5/17）には0.96人、第21週（5/18～5/24）には0.81人と、2週連続して定点あたり1.00人を下まわったため、岡山県は5月28日「インフルエンザ注意報」を解除し、今シーズンの県内のインフルエンザの流行は、ほぼ終息したと考えられます。

全国では、2014年第48週（11/24～11/30）に定点あたり報告数が1.90人となり、流行期に入りました。その後、2015年第4週（1/19～1/25）に定点あたり39.42人となり、流行のピークを迎えました。以降、岡山県とほぼ同様に推移し、第20週（5/11～5/17）には定点あたり0.59人となり、鹿児島県及び沖縄県以外の全国の保健所地域で、注意報レベルを下まわりました。



1. 地域別発生状況

地域別発生状況は、2014年 第36週(9/1~9/7)頃から、真庭以外の地域で散発的に患者が発生していました。流行初期は岡山市、倉敷市、備前地域、備中地域を中心に拡大し、2014年第51週(12/15~12/21)には全地域で流行開始の指標である定点あたり報告数1.00人を上まわり、県内全域で流行期に入りました。その後、患者は急速に増加し、各地域のピーク時の定点あたり報告数は、岡山市56.41人、倉敷市100.69人、備前地域45.73人、備中地域62.58人、備北地域35.67人、真庭地域53.00人、美作地域46.60人でした。各地域とも、2015年第3~5週(1/12~2/1)をピークに、患者数は減少しつづき、第22週(5/25~5/31)、真庭地域(1.67人)及び備北地域(1.50人)を除く全ての地域で定点あたり1.00人を下まわり、今シーズンの流行はほぼ終息したと考えられます。



※感染症発生動向調査は、岡山県を7のブロックに分けて、情報収集しています。

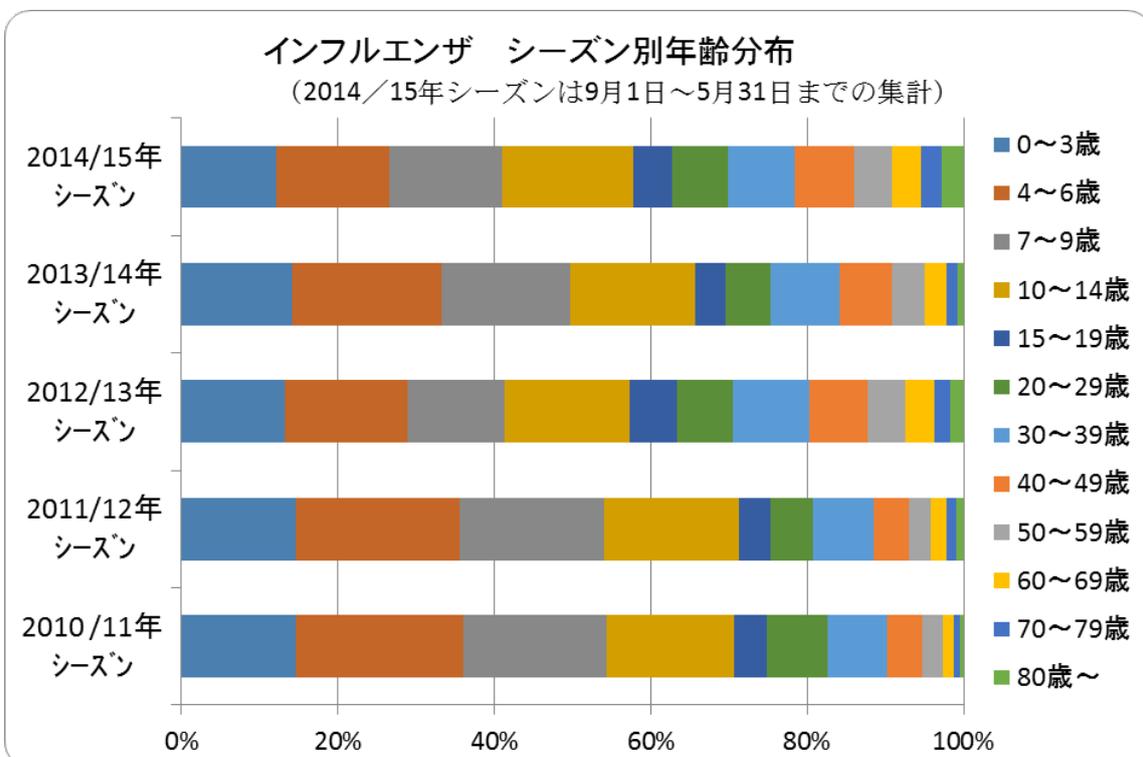
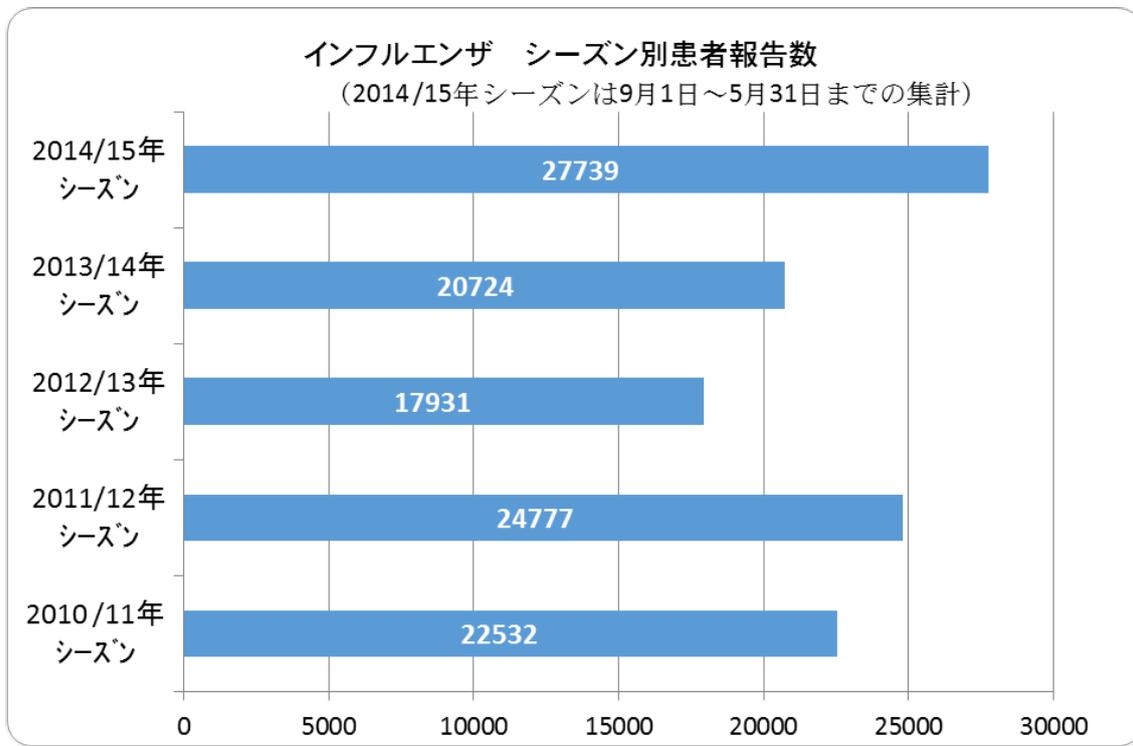


- ・岡山市
- ・倉敷市
- ・備前地域 (オレンジ)
- ・備中地域 (黄)
- ・備北地域 (緑)
- ・真庭地域 (ピンク)
- ・美作地域 (青)

2. 年齢別発生状況

今シーズン（2014年9月1日～2015年8月30日）のうち、2015年5月31日までの県内の患者報告数は27,739人となり、過去5年間で最も患者発生の多いシーズンとなりました。

年齢別割合は、10～14歳が最も高く（16.8%）、つづいて4～6歳（14.5%）、7～9歳（14.3%）の順でした。昨シーズンと比較して、80歳以上の割合が大きく増加しました。



※インフルエンザは、9月から翌年8月までを1シーズンとして集計しています。

3. インフルエンザウイルス検出状況

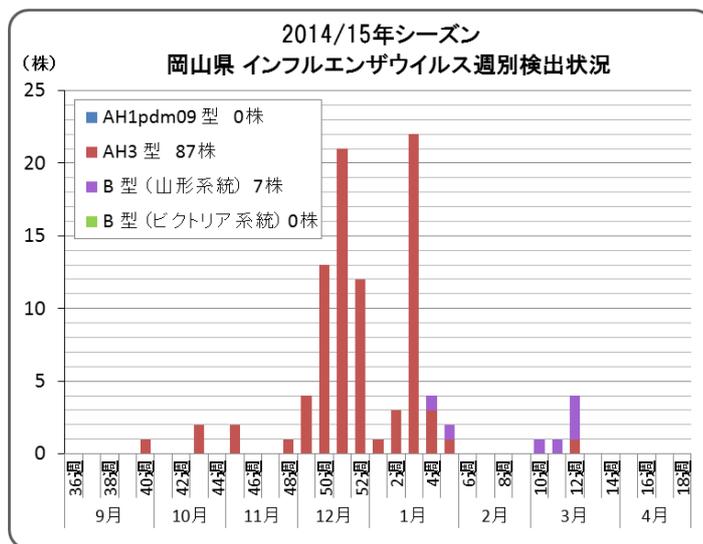
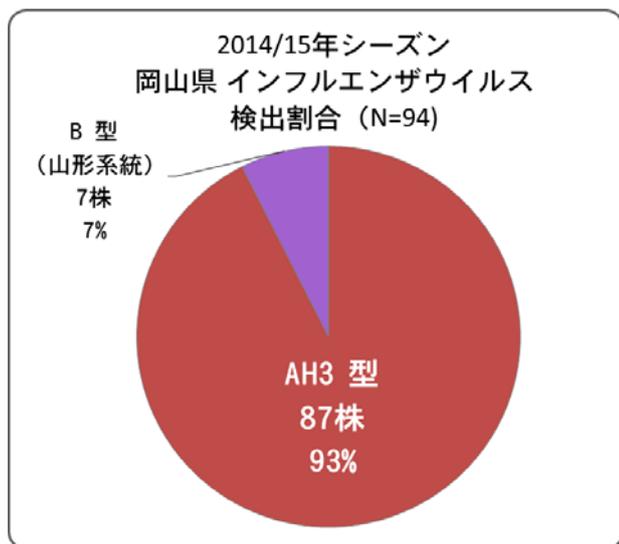
今シーズン（2014年9月1日～2015年8月30日）のうち、2015年5月31日までの岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルス94株の検出割合は、AH3型が93%（87株）と最も高く、次いでB型が7%（7株）でした。昨シーズンは、AH1pdm09型が最も多く検出されましたが、今シーズンは、2シーズンぶりにAH3型が主流となりました。

月別検出状況は、第40週からAH3型が検出され始め、12月にはその検出数が急激に増加しました。その後、第4週からB型（山形系統）が検出され始め、3月はB型の割合がAH3型よりも多くなりました。

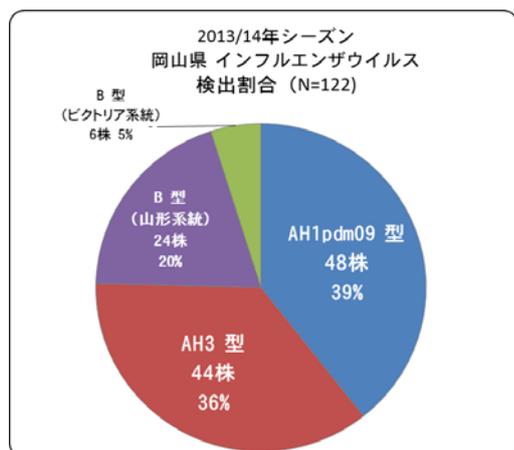
全国で今シーズン検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型 5101株（87%）、B型 714株（12%）（B型のうち山形系統 612株、ビクトリア系統 51株、系統不明 51株）、AH1pdm09型 57株（1%）と報告されています。累計ではAH3型が最も多く検出されましたが、第8週（2/16～2/22）以降は、B型の検出割合が増加しました。昨シーズンは、AH1pdm09型が主流で複数のインフルエンザウイルスが同時に流行しましたが、今シーズンは、AH3型が流行の大部分を占めました。（2015年6月4日現在）

[インフルエンザウイルス分離検出状況](#) 国立感染症研究所

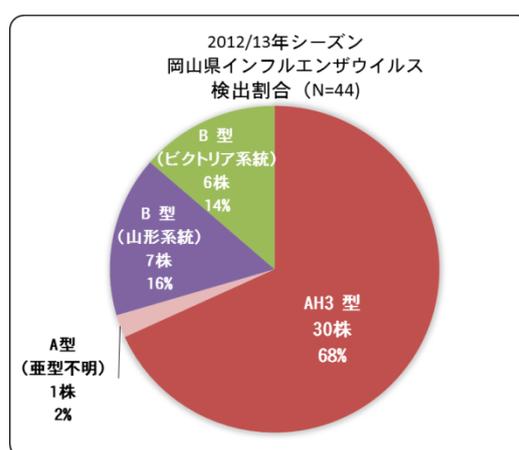
【2014 / 15年シーズン】



【2013 / 14年シーズン】

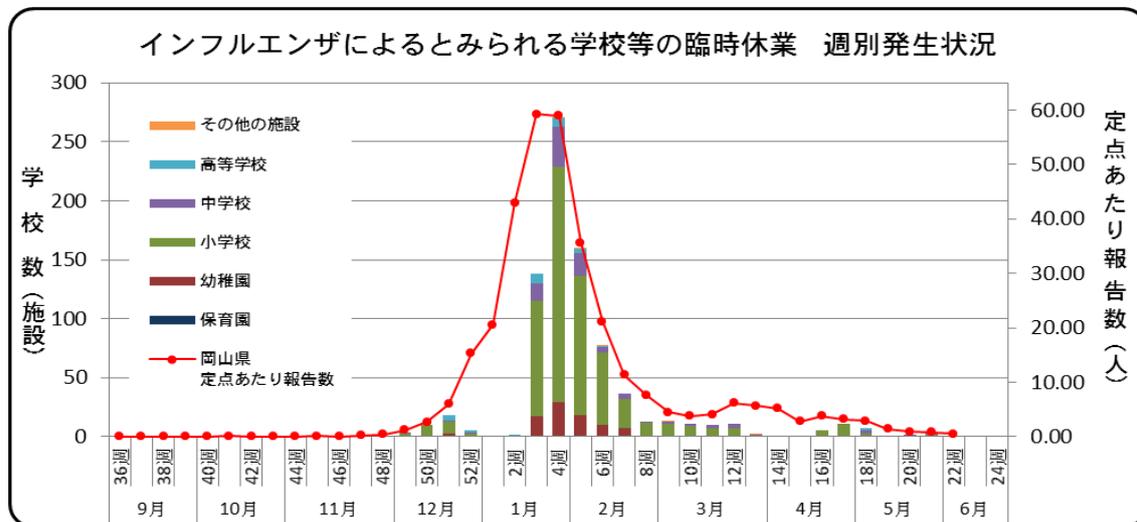


【2012 / 13年シーズン】



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

今シーズン（2014年9月1日～2015年8月30日）のうち、2015年5月31日までのインフルエンザによるとみられる臨時休業は818施設で、昨シーズン（652施設）より増加しました。施設別では、幼稚園86施設、小学校600施設、中学校99施設、高等学校28施設、その他5施設でした。初発は2014年10月21日で、昨シーズン（11月13日）より早い報告となり、今シーズンのピークには1週間に271施設の報告がありました。



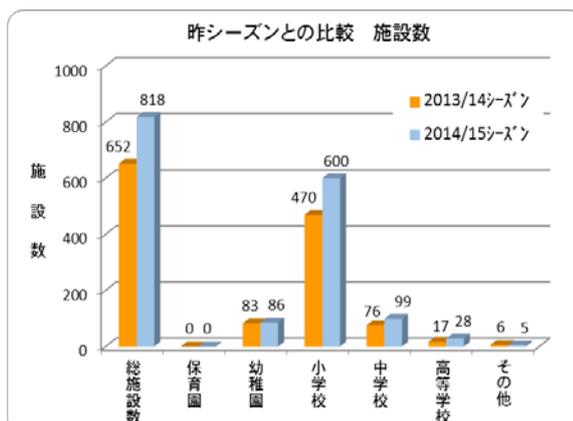
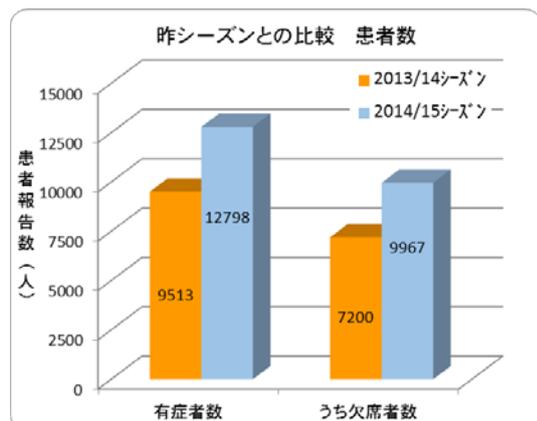
1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数	うち欠席者数	施設数合計	休園・休校数	学年閉鎖	学級閉鎖	初発年月日
岡山県全体	12798	9967	818	18	212	588	H 26. 10. 21
岡山市	5194	3884	307	2	43	262	H26. 12. 1
倉敷市	3035	2478	167	3	26	138	H26. 10. 21
備前地域	807	681	68	0	26	42	H26. 12. 9
備中地域	1653	1321	134	5	55	74	H26. 12. 8
備北地域	377	212	17	1	10	6	H27. 1. 16
真庭地域	308	242	26	3	14	9	H26. 12. 16
美作地域	1424	1149	99	4	38	57	H27. 1. 13

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

2) 臨時休業施設数の内訳 累計：818施設

	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他
施設数	—	86	600	99	28	5



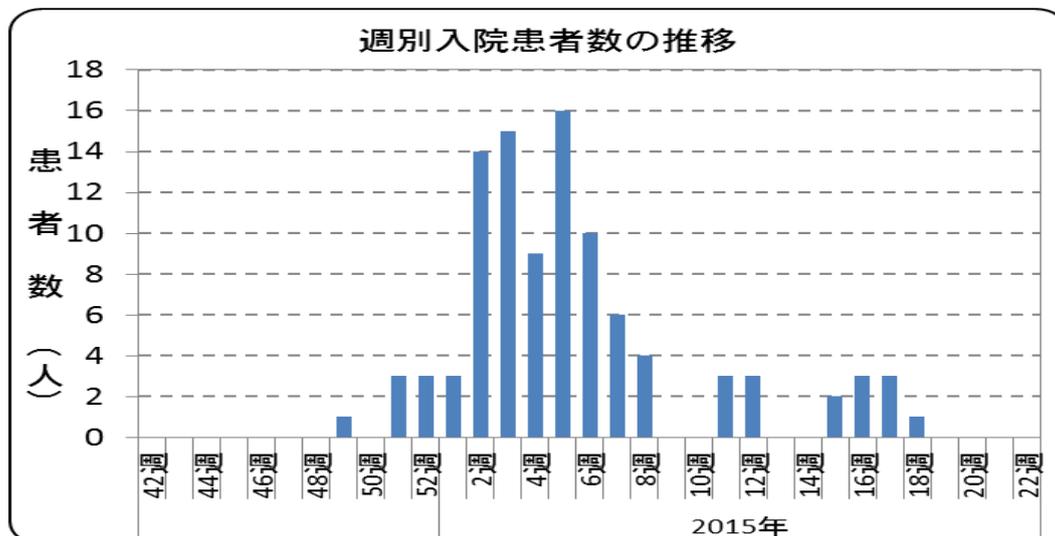
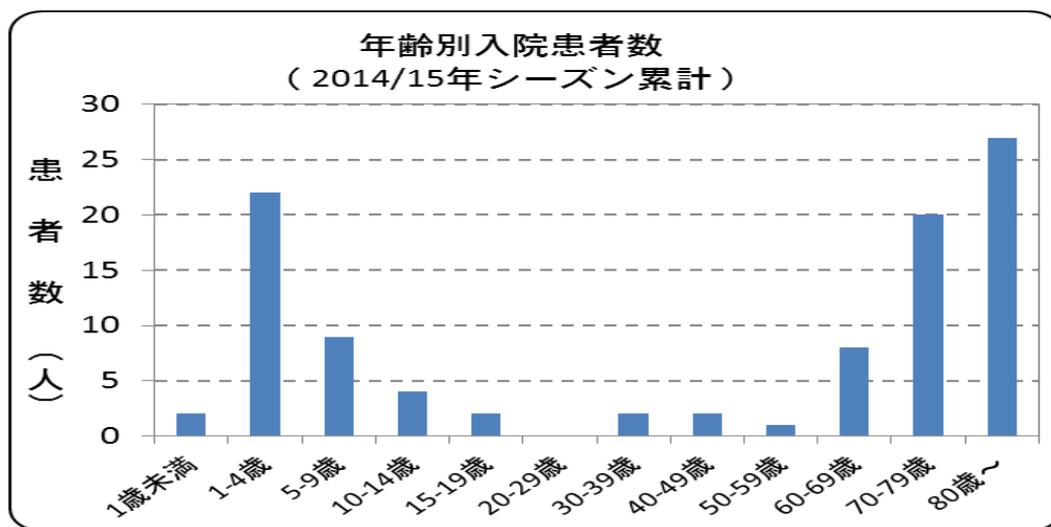
5. インフルエンザによる入院患者報告数(県内基幹定点 5 医療機関による報告)

今シーズン (2014 年 9 月 1 日～2015 年 8 月 30 日) のうち、2015 年 5 月 31 日までのインフルエンザによる入院患者数は、99 名であり、昨シーズン (68 名) より増加しました。年齢別では、9 歳以下 (33%) 及び 60 歳以上 (56%) が多くを占めました。週別では、第 5 週に入院患者数が最も多くなりました。

【2014 / 15 年シーズン(2014 年 9 月 1 日～2015 年 5 月 31 日)までのインフルエンザにより入院した患者の累計数】

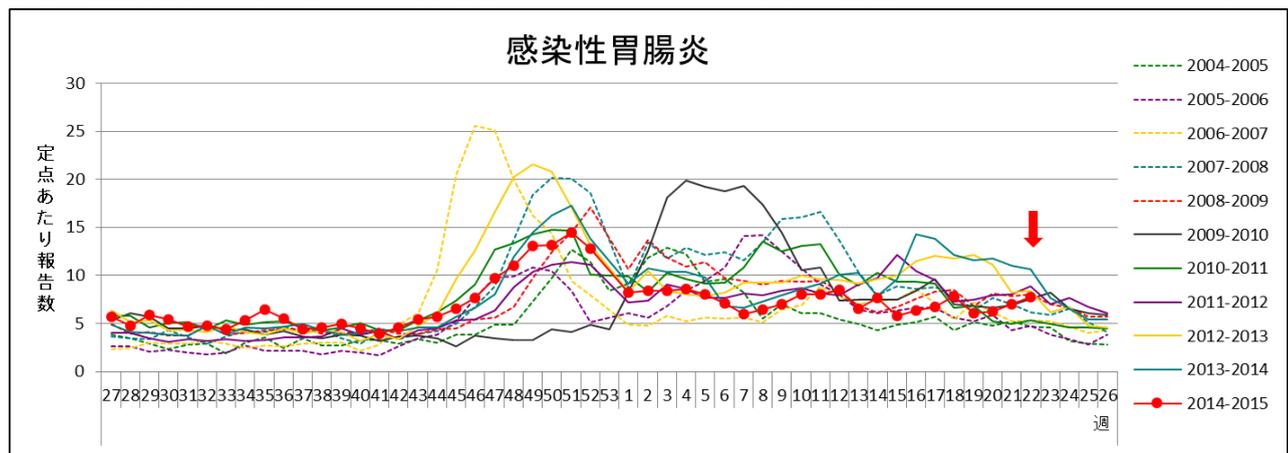
年 齢	1 歳 未 満	1～4 歳	5～9 歳	10～ 14 歳	15～ 19 歳	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	70～ 79 歳	80 歳 以 上	計*
入院患者数	2	22	9	4	2		2	2	1	8	20	27	99
ICU 入室											3		3
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査 (予定含)		5		1						2	4	3	15
頭部 MRI 検査 (予定含)	1	2	2						1		1	1	8
脳波検査 (予定含)	1	2	2										5
いずれにも該当せず	2	16	10	1	1	2	1	1		7	5	9	55

* 重複あり



感染性胃腸炎週報 2015年 第22週 (5月25日～5月31日)

○感染性胃腸炎は、県全体で417名（定点あたり7.02 → 7.72人）の報告がありました（54定点医療機関報告）。



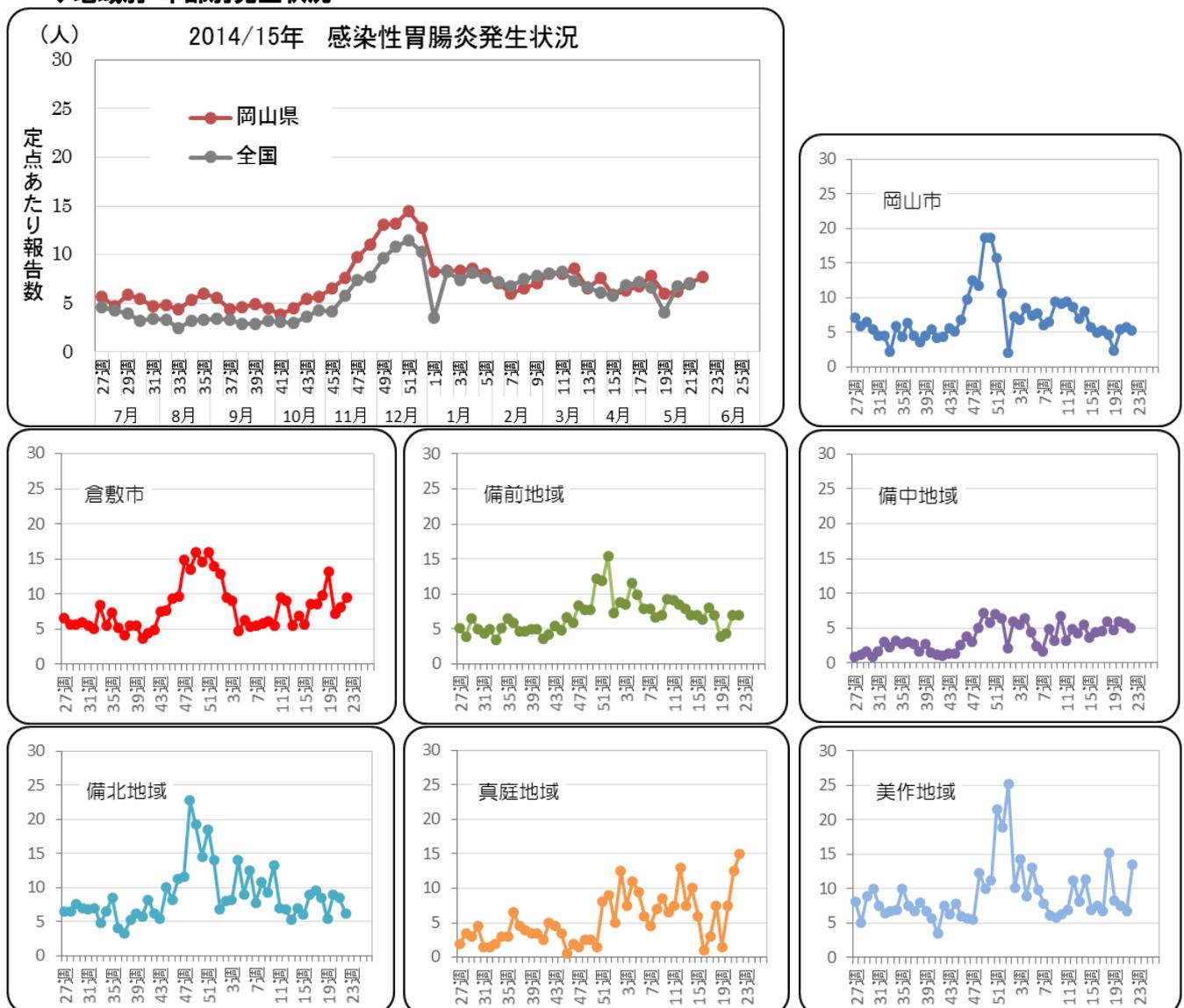
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

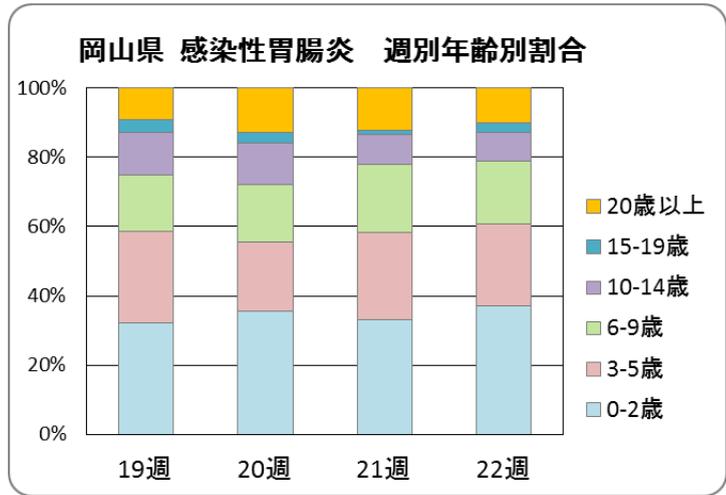
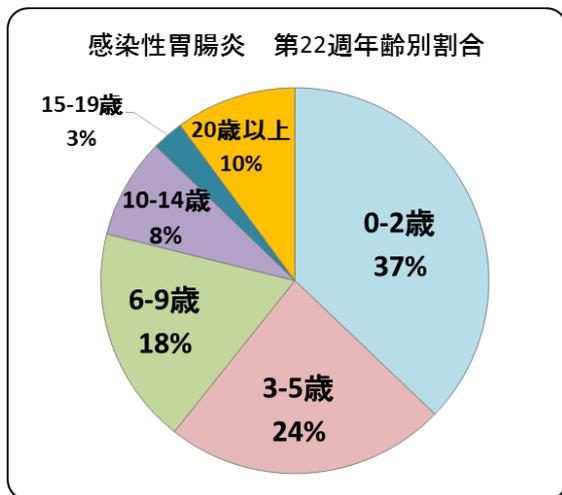
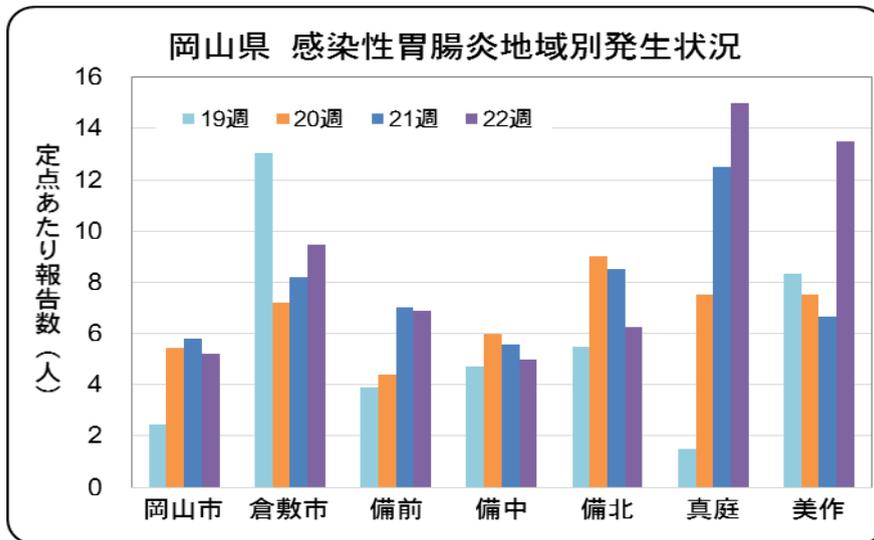
感染性胃腸炎は、県全体で417名（定点あたり7.02 → 7.72人）の報告があり、前週より増加しました。

例年、梅雨から夏にかけての高温多湿になる時期は、食中毒菌による感染性胃腸炎も増加します。トイレの後や食事、調理の前には、特にしっかりと石けんと流水で手を洗うなど、感染予防に努めてください。食中毒の原因となる菌には、増殖しても味やにおいあまり変化を起こさないものもあります。味やにおいを過信するのは止めましょう。

[食中毒に関する情報（厚生労働省）](#)

◆地域別・年齢別発生状況





地域別では、美作地域（6.67→13.50人）で前週より定点あたり報告数が大きく増加しました。また、真庭地域では3週連続で、倉敷地域では2週連続で増加しています。真庭地域（15.00人）、美作地域（13.50人）、倉敷市（9.45人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年齢別割合では、5歳以下の乳幼児が全体の61%を占めています。

保健所別報告患者数（定点把握） 2015年 22週

（ 2015/05/25～2015/05/31 ）

2015年6月3日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当												
インフルエンザ	46	0.55	6	0.27	13	0.81	1	0.07	5	0.42	9	1.50	5	1.67	7	0.70
RSウイルス感染症	3	0.06	1	0.07	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	22	0.41	15	1.07	2	0.18	1	0.10	1	0.14	1	0.25	-	-	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	114	2.11	27	1.93	46	4.18	2	0.20	14	2.00	14	3.50	-	-	11	1.83
感染性胃腸炎	417	7.72	73	5.21	104	9.45	69	6.90	35	5.00	25	6.25	30	15.00	81	13.50
水痘	10	0.19	2	0.14	4	0.36	1	0.10	3	0.43	-	-	-	-	-	-
手足口病	88	1.63	21	1.50	18	1.64	15	1.50	11	1.57	17	4.25	1	0.50	5	0.83
伝染性紅斑	10	0.19	8	0.57	-	-	1	0.10	-	-	-	-	1	0.50	-	-
突発性発疹	21	0.39	5	0.36	6	0.55	4	0.40	1	0.14	2	0.50	-	-	3	0.50
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	13	0.24	5	0.36	3	0.27	1	0.10	4	0.57	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	16	0.30	2	0.14	4	0.36	-	-	-	-	-	-	-	-	10	1.67
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	3	0.60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.00	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数(発生レベル設定疾患) 2015年 22週

(2015/05/25~2015/05/31)

2015年6月3日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当												
インフルエンザ	46	0.55	6	0.27	13	0.81	1	0.07	5	0.42	9	1.50	5	1.67	7	0.70
咽頭結膜熱	22	0.41	15	1.07	2	0.18	1	0.10	1	0.14	1	0.25	-	-	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	114	2.11	27	1.93	46	4.18	2	0.20	14	2.00	14	3.50	-	-	11	1.83
感染性胃腸炎	417	7.72	73	5.21	104	9.45	69	6.90	35	5.00	25	6.25	30	15.00	81	13.50
水痘	10	0.19	2	0.14	4	0.36	1	0.10	3	0.43	-	-	-	-	-	-
手足口病	88	1.63	21	1.50	18	1.64	15	1.50	11	1.57	17	4.25	1	0.50	5	0.83
伝染性紅斑	10	0.19	8	0.57	-	-	1	0.10	-	-	-	-	1	0.50	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	13	0.24	5	0.36	3	0.27	1	0.10	4	0.57	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	16	0.30	2	0.14	4	0.36	-	-	-	-	-	-	-	-	10	1.67
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	3	0.60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第22週 2015/05/25～2015/05/31)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	46	-	1	1	1	-	3	2	-	5	2	1	17	1	1	8	-	-	1	2	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	3	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	22	-	3	9	3	3	-	2	-	1	1	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	114	-	4	8	13	11	12	14	10	8	6	3	14	-	11
感染性胃腸炎	417	7	31	78	39	42	32	24	21	22	15	18	35	11	42
水痘	10	-	1	1	-	2	-	1	2	-	1	-	2	-	-
手足口病	88	2	4	39	15	13	6	5	2	-	-	-	2	-	-
伝染性紅斑	10	-	-	1	-	1	2	1	1	1	-	2	1	-	-
突発性発疹	21	2	7	8	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	13	-	1	3	4	1	2	-	-	2	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	16	-	-	1	2	2	3	2	2	4	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-

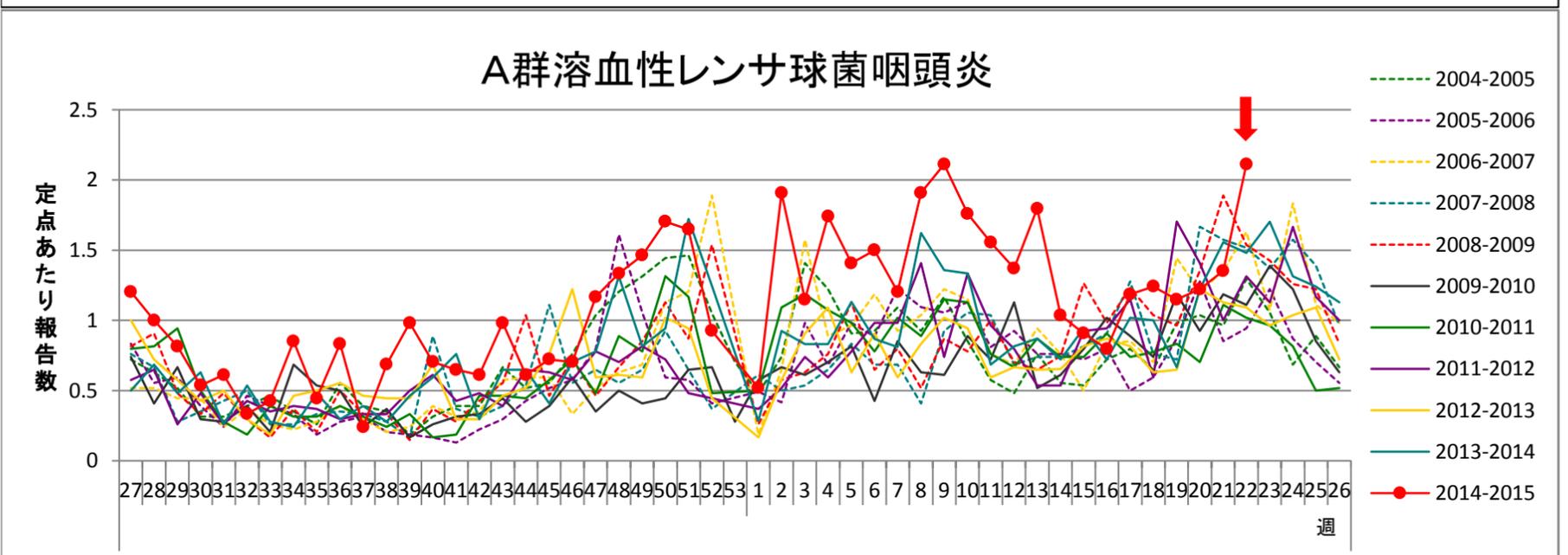
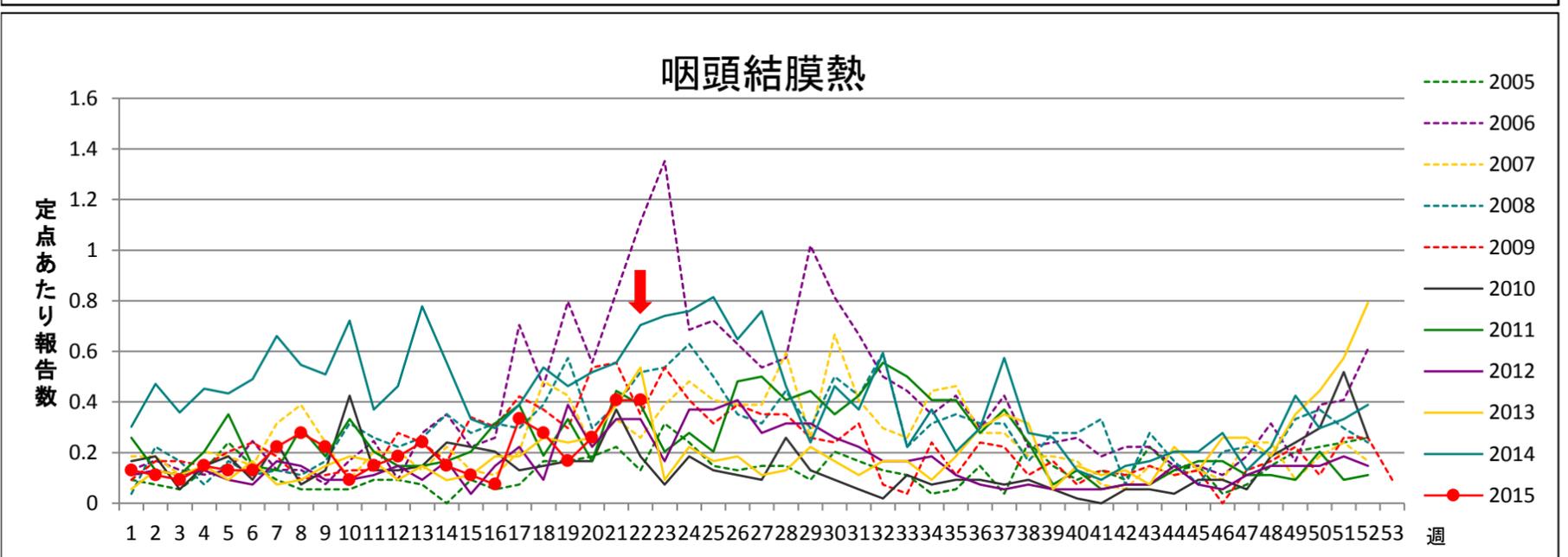
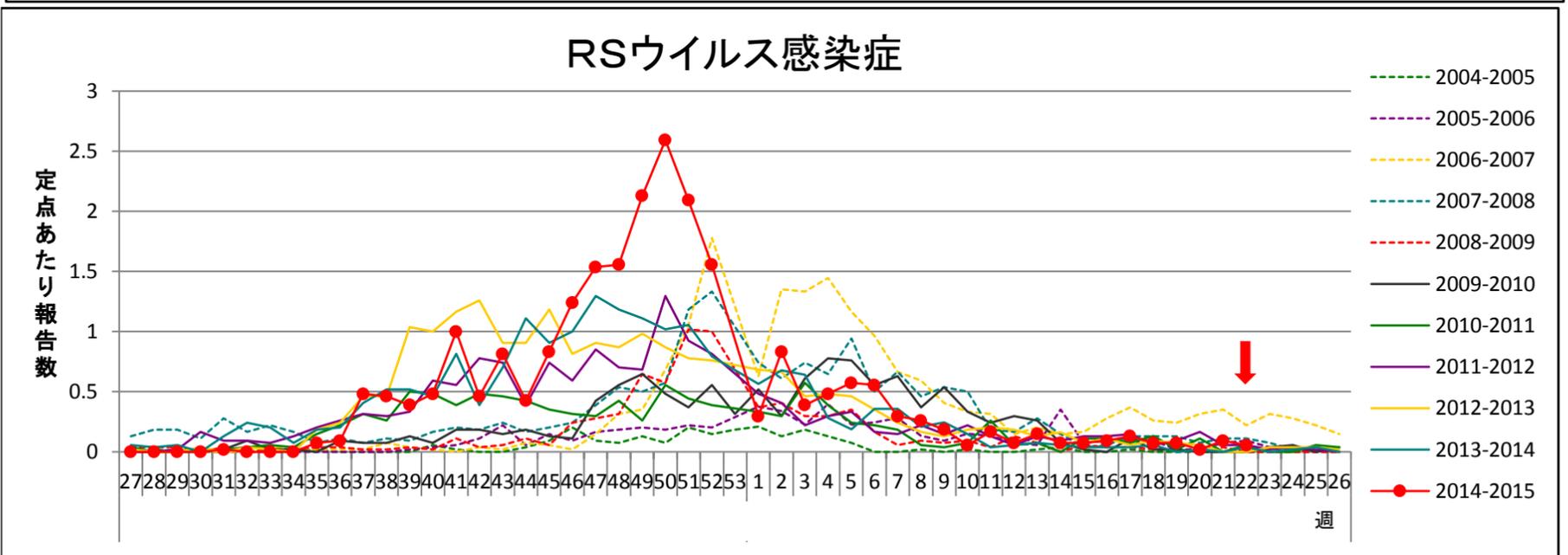
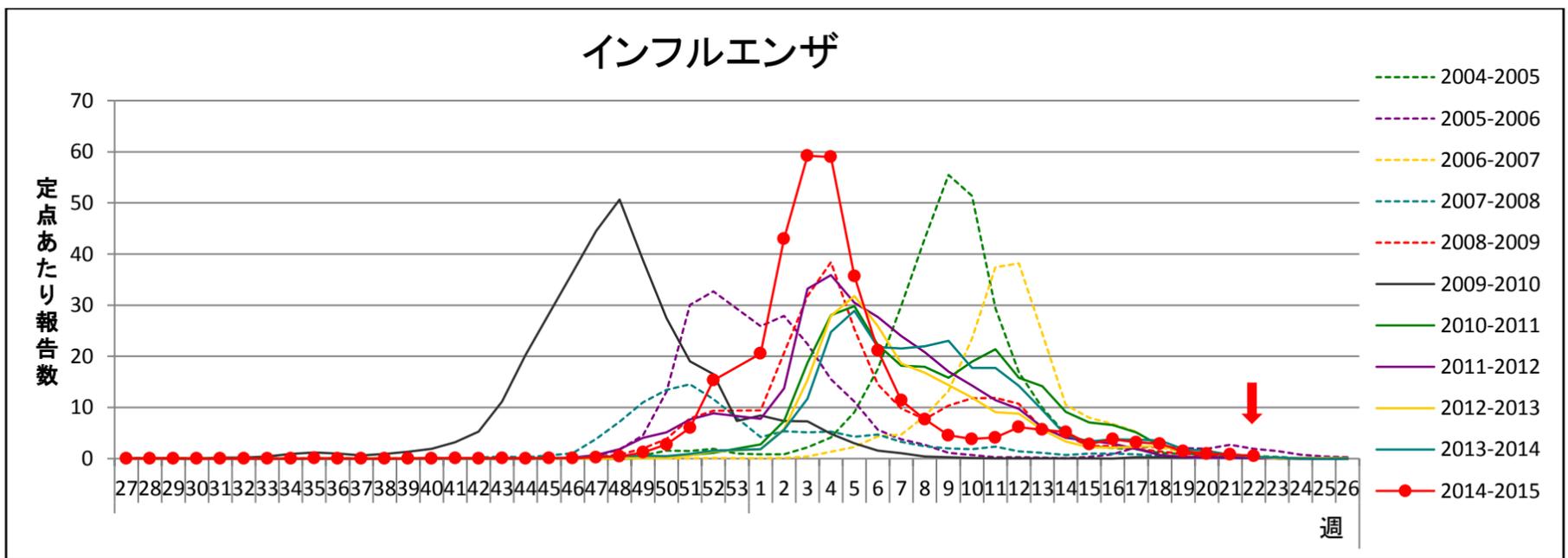
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

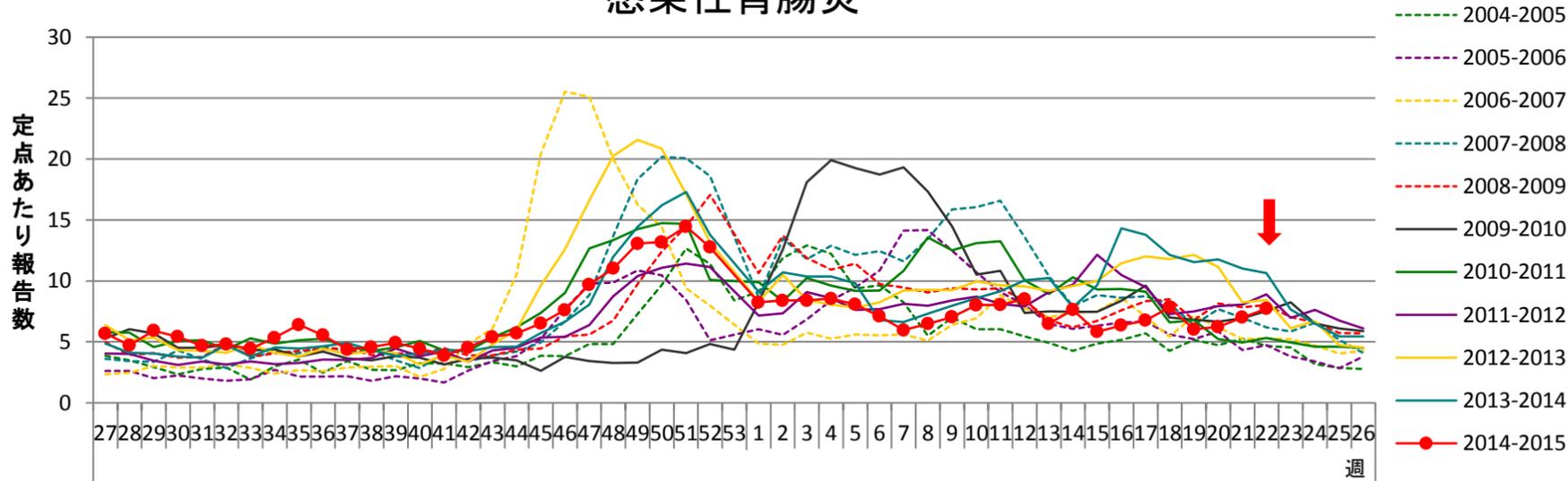
全数把握 感染症患者発生状況

2015年 22週

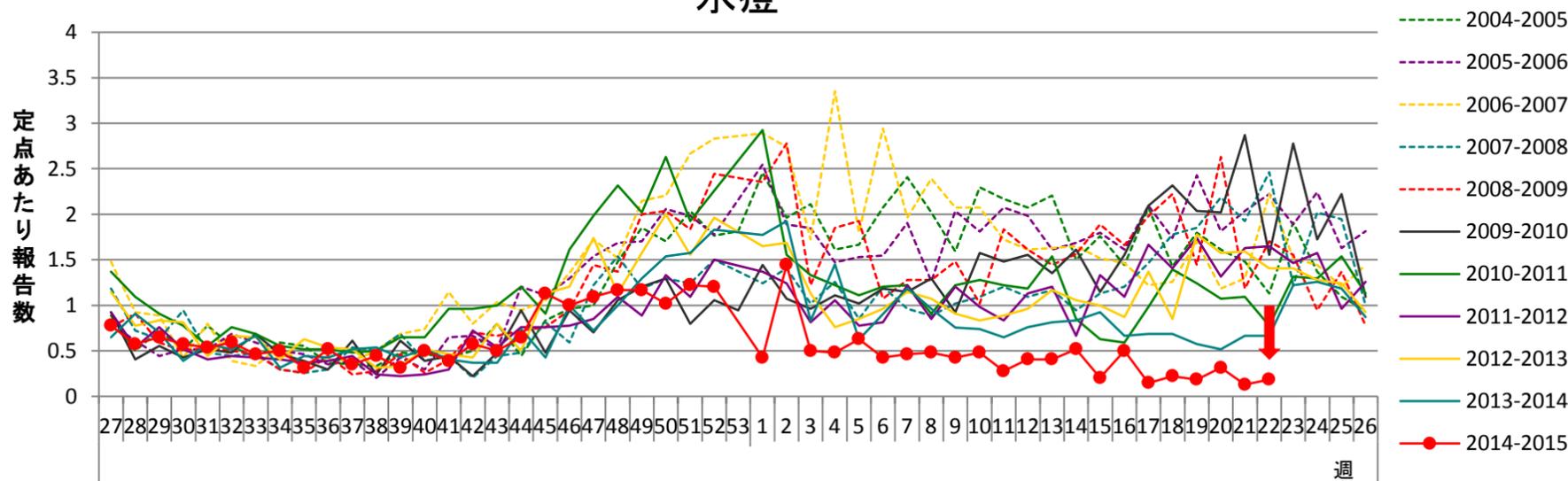
分類	疾病名	2015			疾病名	2014			疾病名	2015			2014		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年			
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	9	128	384	ジフテリア	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	1	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	3	71	-	-	-
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-	-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	5	8	-	-	-
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	1	-	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	2	腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1	-	-	-
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	4	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	8	32	レプトスピラ症	-	-	-	-	-	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	9	12	ウイルス性肝炎*3	-	4	7	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	17	12	-	-
急性脳炎*4		-	6	9	クリプトスポリジウム症	-	1	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	1	-	-	-
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		-	-	3	後天性免疫不全症候群	-	9	21	ジアルジア症	-	-	1	-	-	-
侵襲性インフルエンザ菌感染症		-	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	19	27	-	-	-
水痘(入院例に限る。)		-	-	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	7	21	-	-	-
播種性クリプトコックス症		-	1	1	破傷風	-	-	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	-	2	風しん	-	-	2	麻しん	-	-	6	-	-	-
薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-



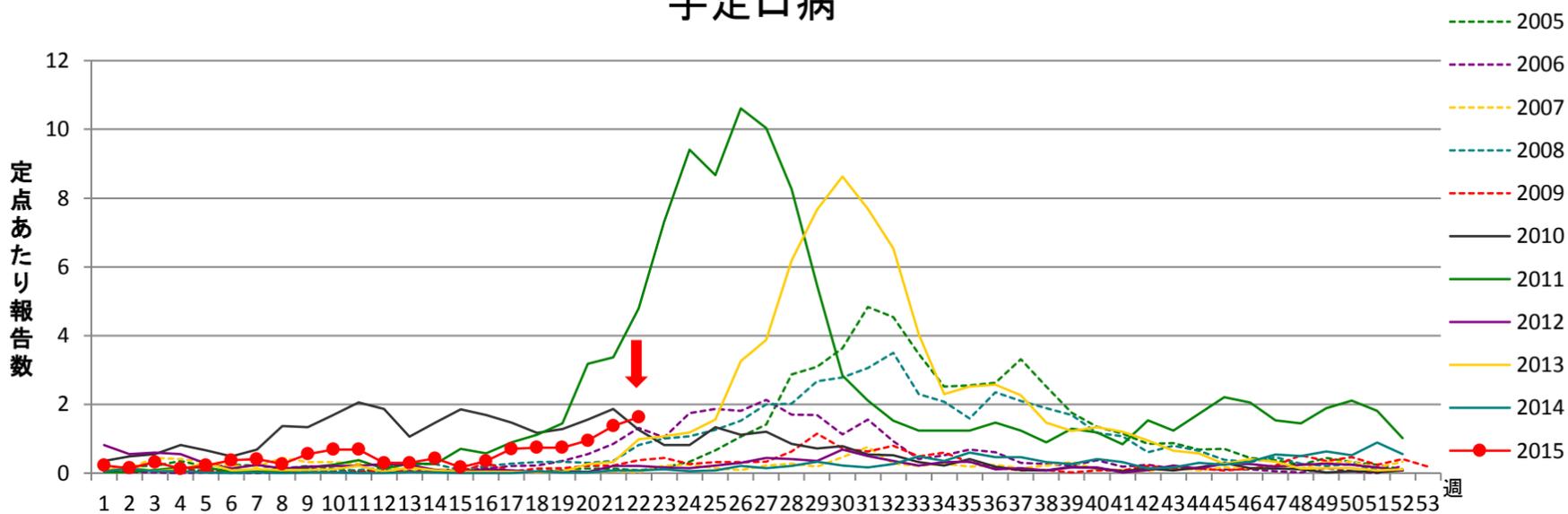
感染性胃腸炎



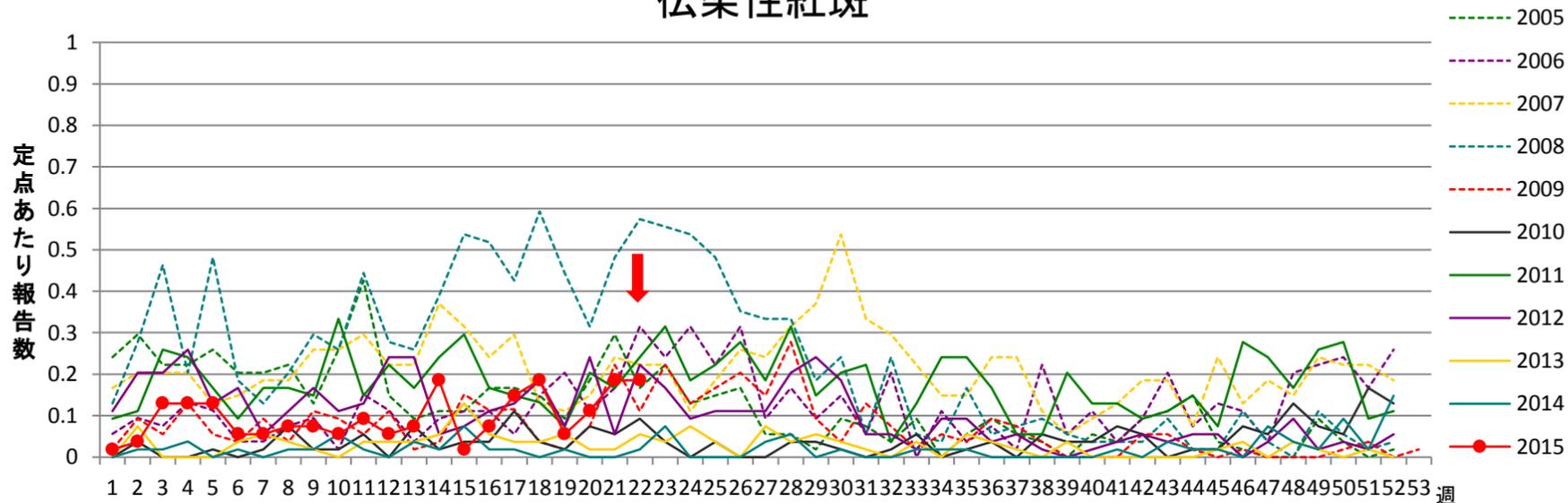
水痘



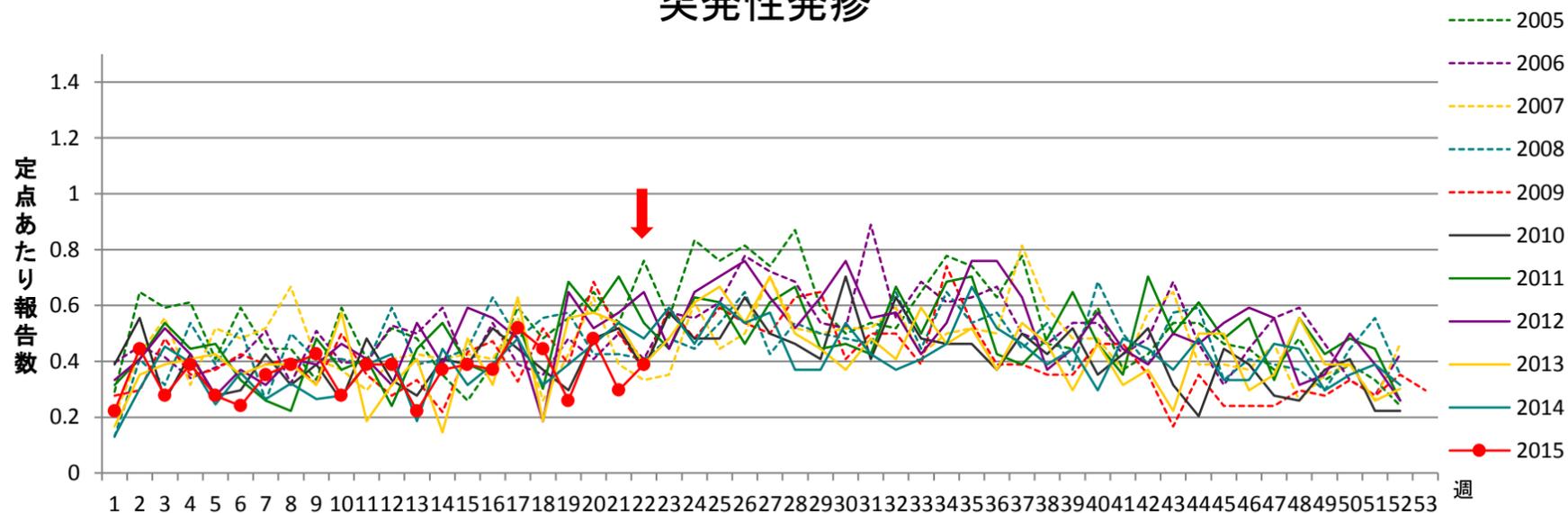
手足口病



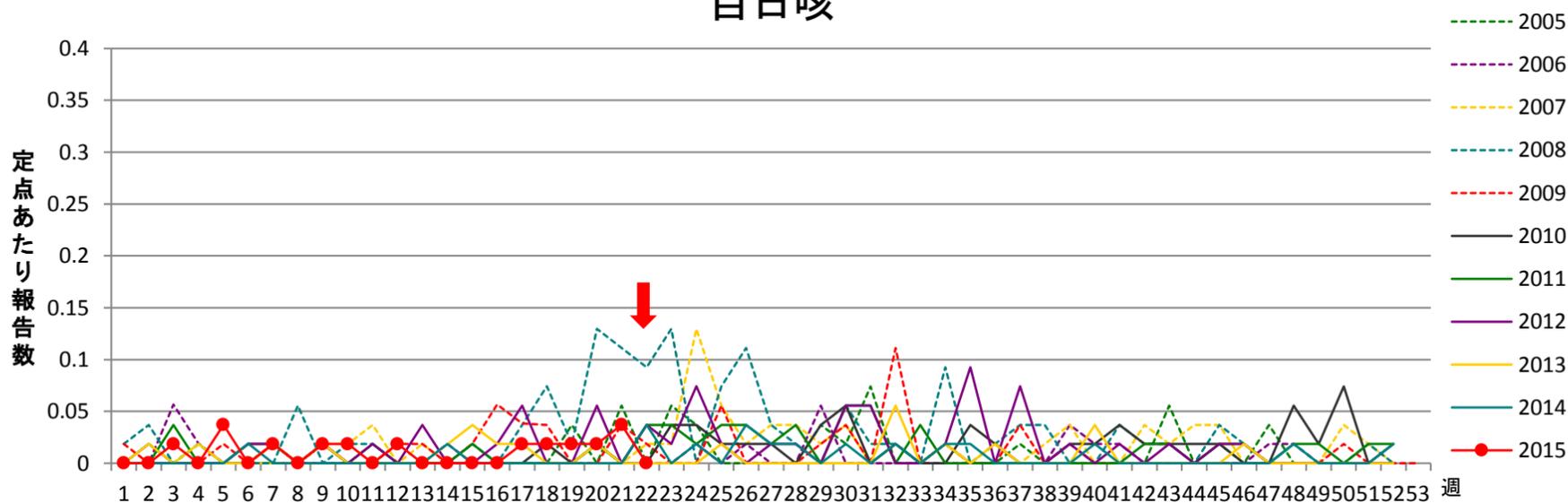
伝染性紅斑



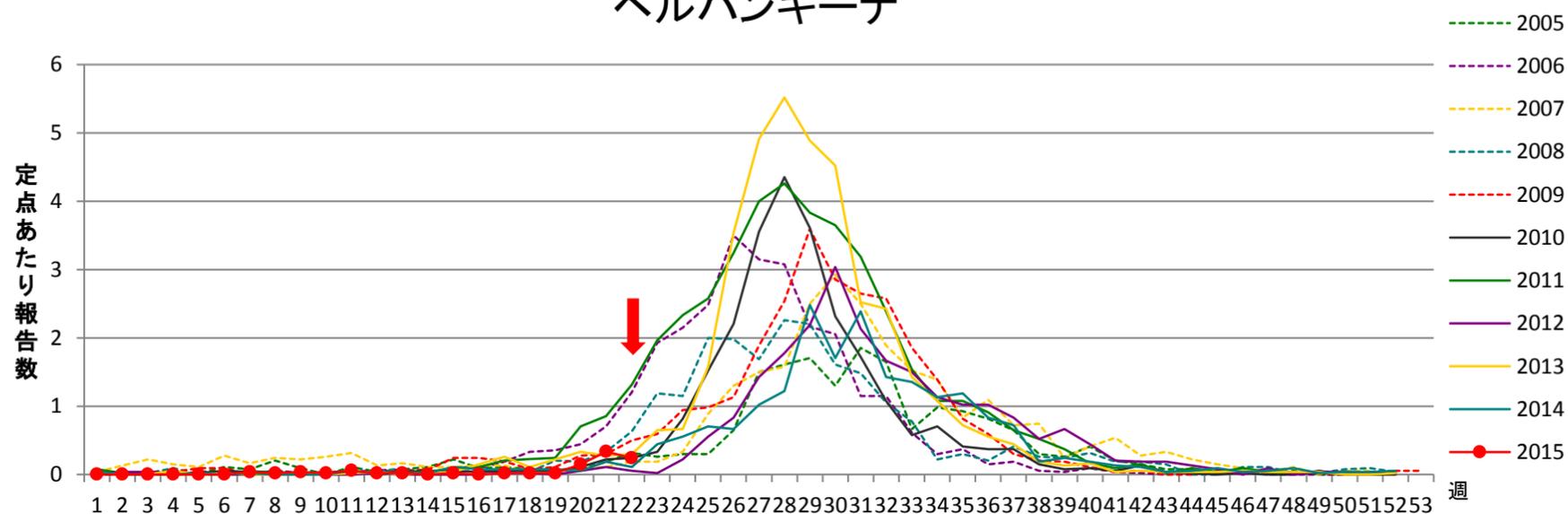
突発性発疹



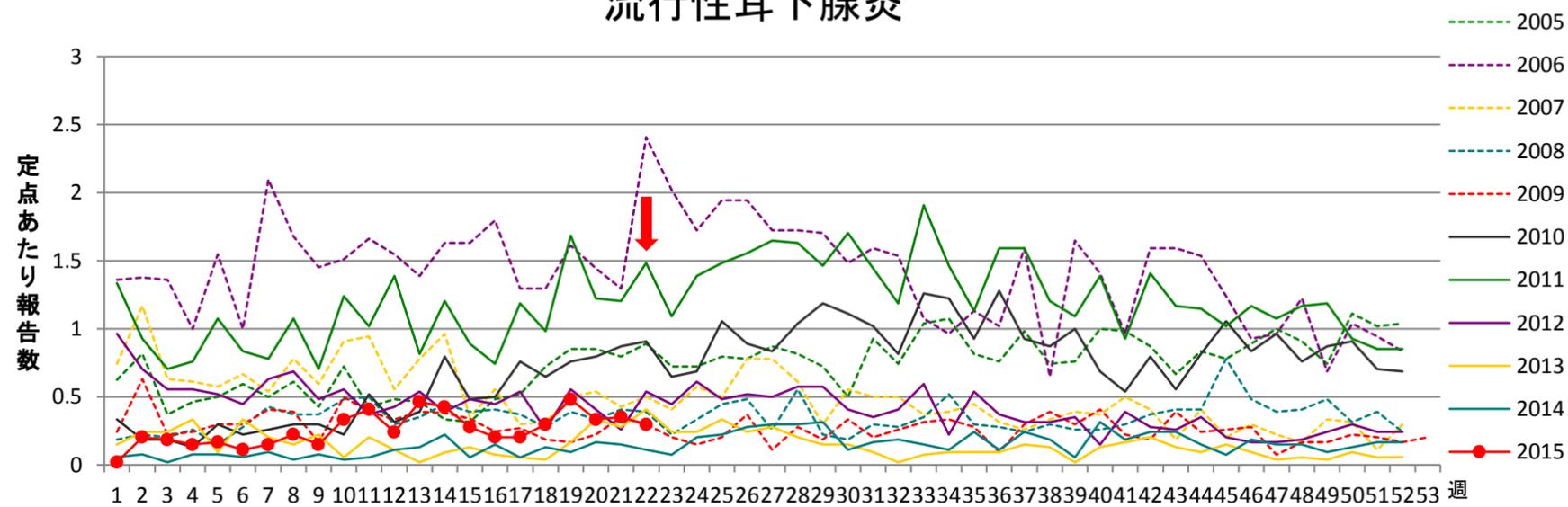
百日咳



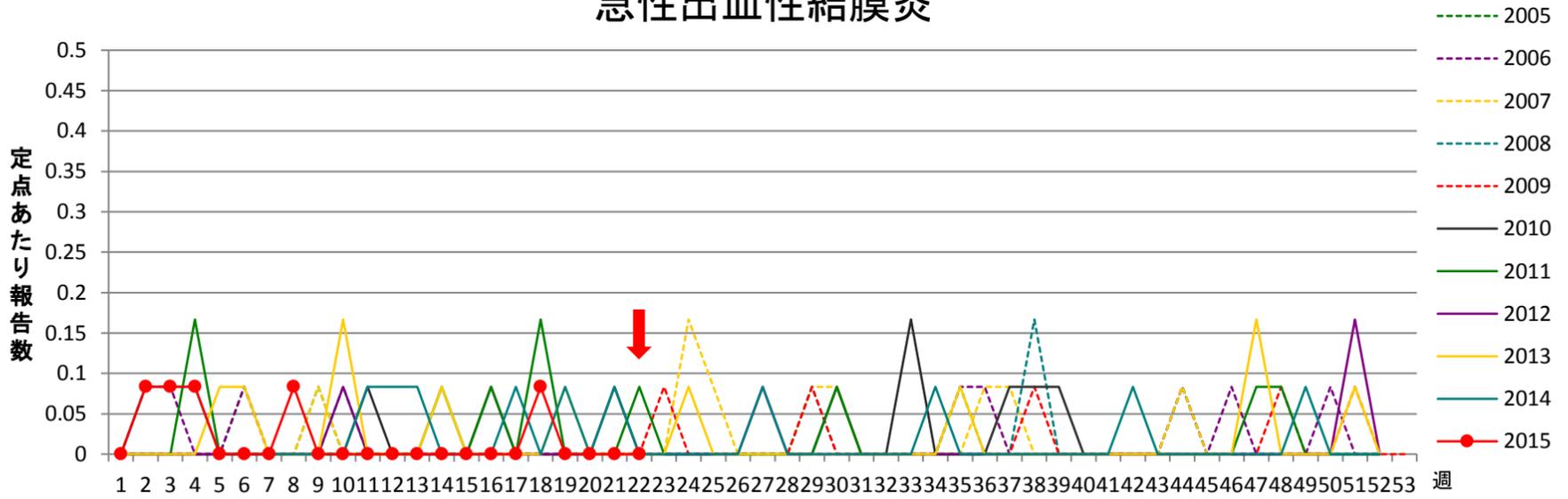
ヘルパンギーナ



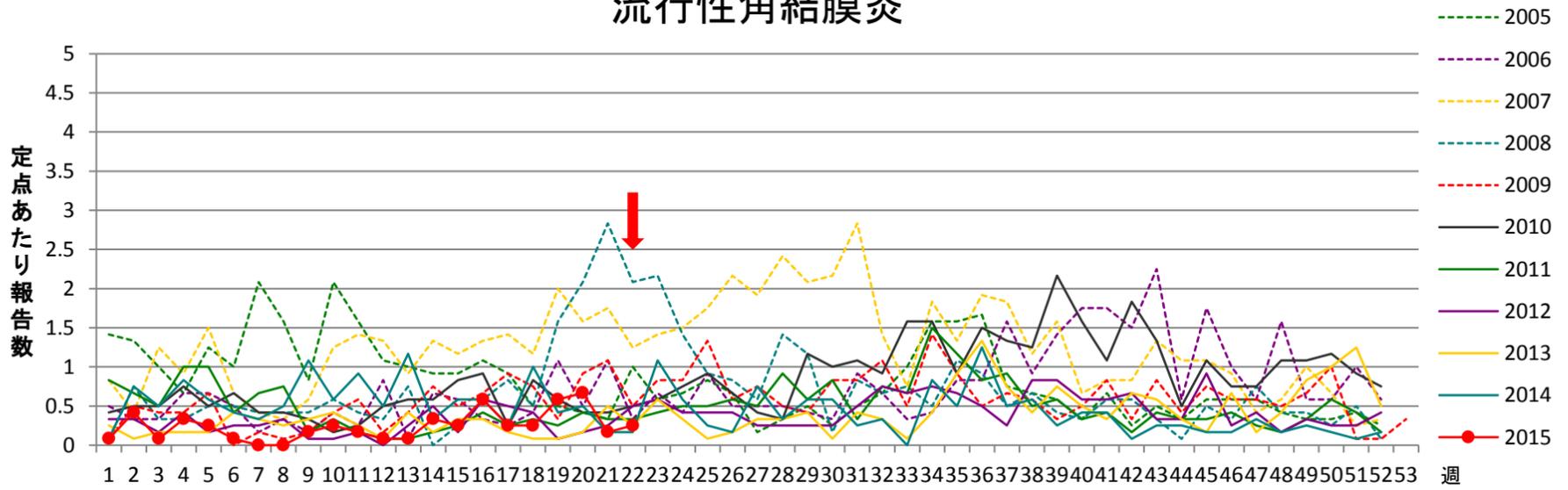
流行性耳下腺炎



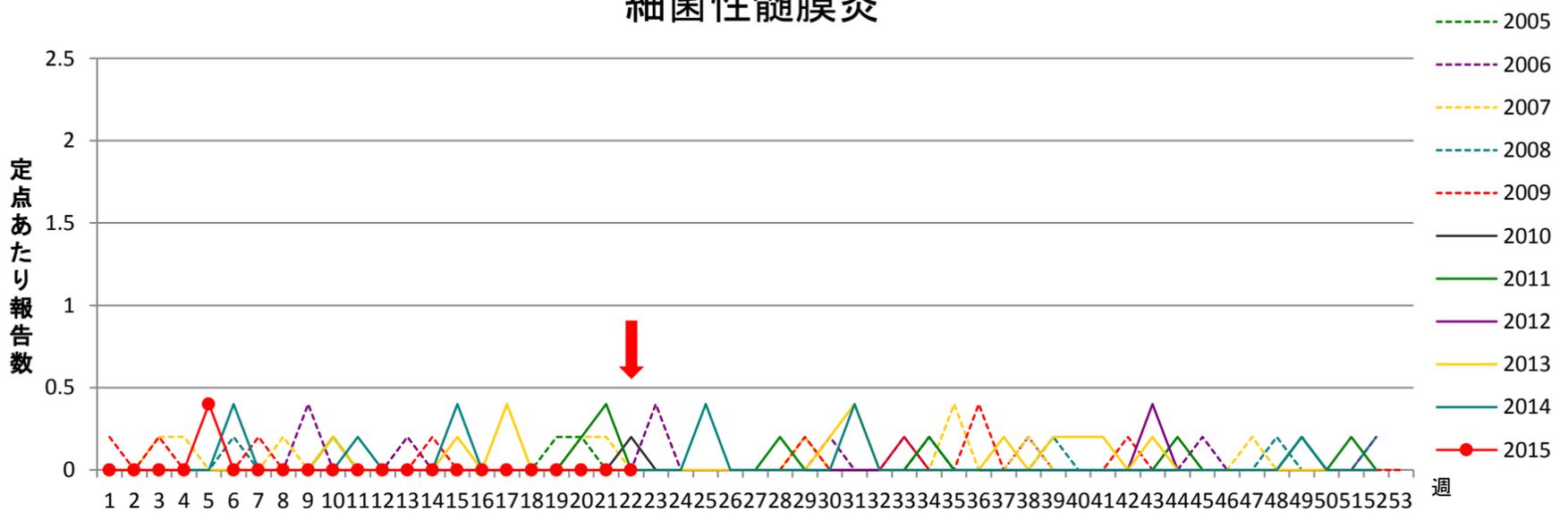
急性出血性結膜炎



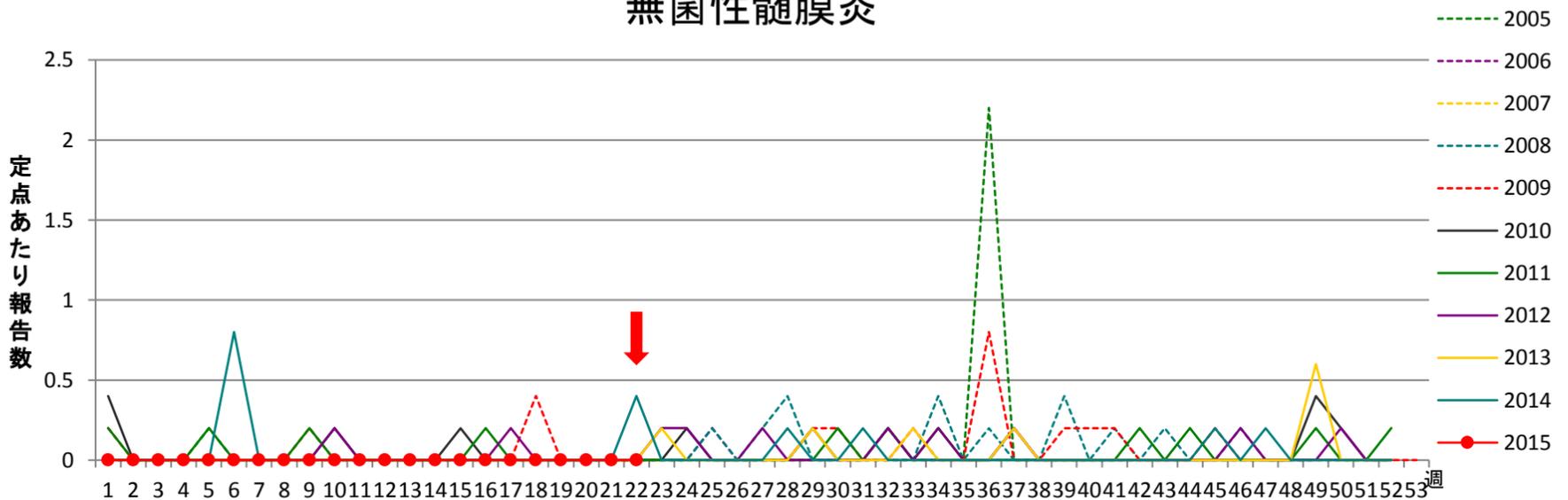
流行性角結膜炎



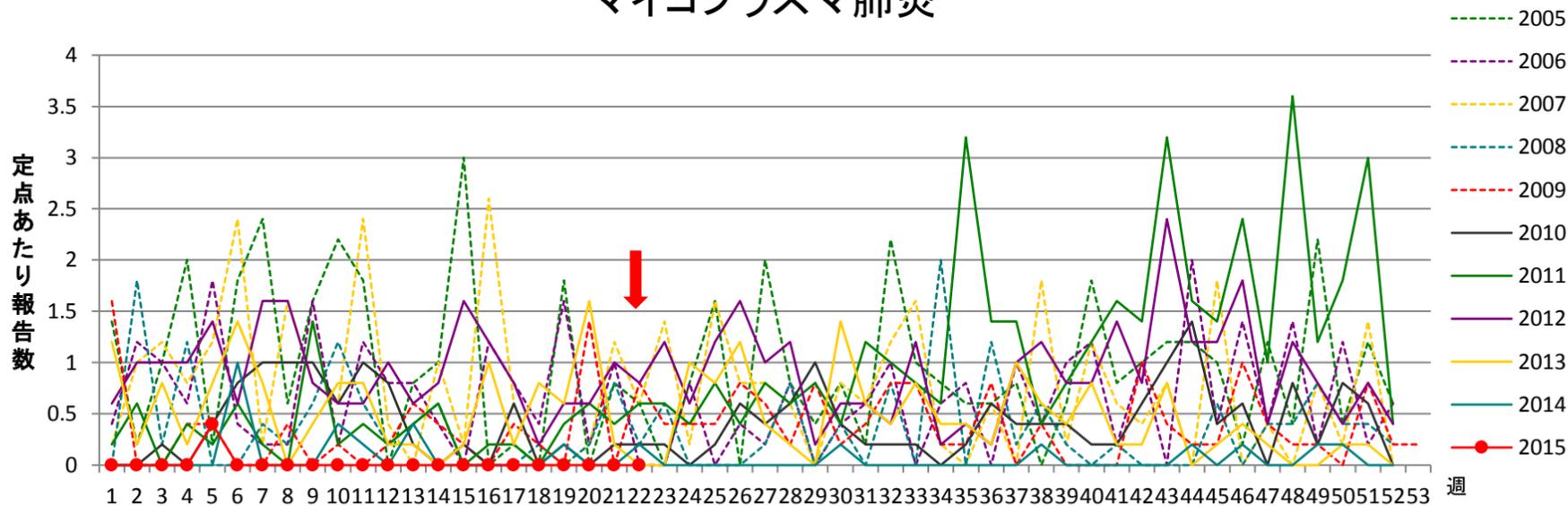
細菌性髄膜炎



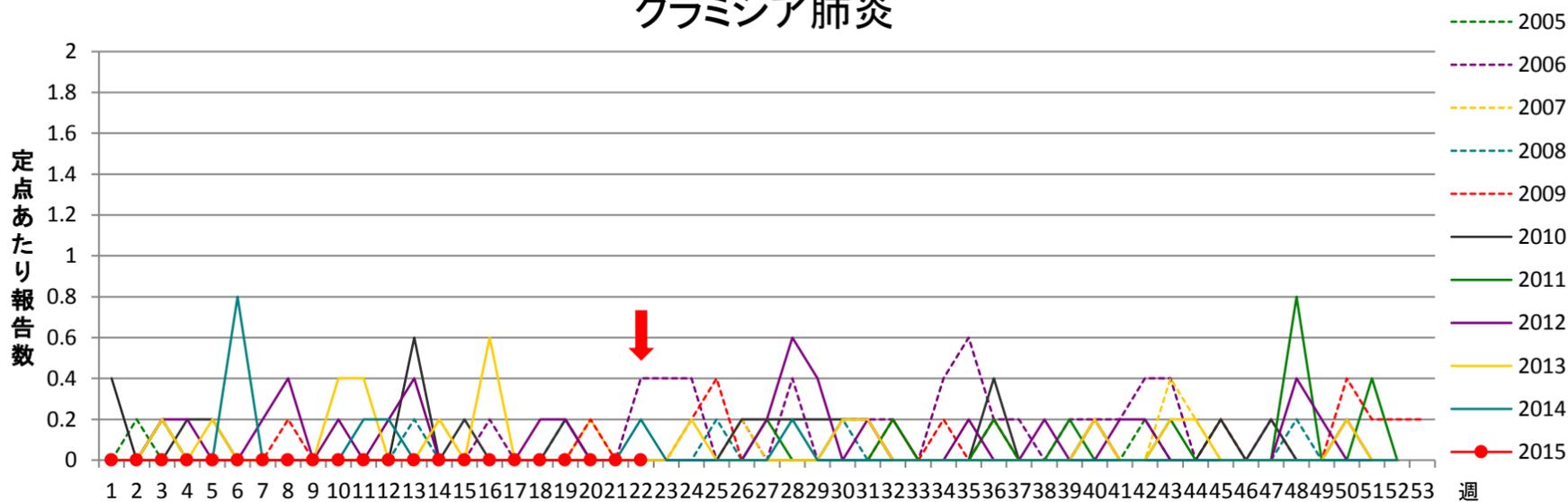
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

